

平成19年7月3日

〒590-0494

京都大学原子炉実験所

助手・小出 裕章 様

〒177-0041 4-25

蒼天社政治情報センター

代表・石川 鐵也



公開論議における総括Ⅲ

本年6月25日付の「小出論」を拝見しました。「小出さんの愚痴（このような論争にどれだけの価値があるか、私自身は首をかしげています）で始まり、小出さんの愚痴で終えたネット論議」と言っても過言ではありませんでしたが、多くの読者の参考になったのではないのでしょうか。

小出論は自己陶醉型の論調であり、綺麗な風船を数多く浮かべたようなものでした。これまでのように価値観を共有する者と論じていれば「あ～綺麗」で済んだのですが、疑問点を指摘されるだけでも簡単に破裂するような風船でした。にもかかわらず、次々と風船を並べ替えて、その綺麗さだけは保とうとする小出さんの努力には敬服しました。

自己陶醉型だからこそ、「自己主張の矛盾」にも気づかないのです。故に、「私の生き方について石川さんに相談するつもりはありませんし、指図される謂れもないことはすでに何度も書いたとおりです。きっと石川さんは今後も一中略一余りに愚かだと私は思いますが、それを忠告する責任は私にはありません（6月25日4頁）」などと述べておきながら、「石川さんも温暖化防止のために原子力が必要だなどと言うべきではありません（6月25日1頁）」と断じて悦に入ります。

小出さんは前回、では、どうすればいいのか？「結論は明白です」と、さも脱原発の具体策があるかのように格好つけておきながら — 今回もまた、環状論を繰り返しただけで済ました。自分自身都合の良いことについては「一步一步」と着実性を表現し、都合の悪いことは抽象論でごまかしているのが小出論の正体です。

否定されるのであれば、「実際に政策立案作業に関わっていない石川さんと私で具体的な政策について議論することは意味がない」と逃げずに、具体的な代案を示してください。本論内容に興味を持つ読者には、政府関係者や電力関係者も多数存在することを伝えたはずですが、小出さんにはまだ理解できないようですが、スウェーデンやドイツと日本の国情は異なるのです。原子力発電の代替案を明確にできぬままでは、即刻原子力発電を廃止することはできません。本件については、スウェーデンやドイツも同様です。そういった事実をも考慮の上でお願いしたいのですが・・・やはり小出さんには無理でしょうね。

小出さんは以前、風力発電も「太陽エネルギー」と述べられ、「太陽光発電や風力発電の一斉停止はない」と断言されましたが、私に一斉停止の事実やその可能性を指摘され、さぞ驚愕されたことでしょう。先月29日に放送された「スーパーモーニング」をご覧になりましたか。集落の近くに風力発電所を建設したために、住民らが騒音に悩まされ、生活にも支障をきたしている、というものでした。狭い国土に人口密度が高い我が国では、こういった問題も当然のように発生するのです。だからこそ、小出さんのように、「メリット、デメリットが存在する」といった抽象論を繰り返すだけでは詮無い事、と伝えてきたのです。

小出さん、貴方は「高レベル放射性廃棄物は電力各本社の地下に保管すべき」と断言してきましたが、これまではその具体策など一切示さずにおりました。私に問われ、今回初めて「電力会社の地下で保管しようという方針が合意できるのであれば、あとはその場所

の地盤を調べ、耐震を含めた安全性について配慮し、一中略—その場合でも、地下の状況を調べることから始まり、処分場の位置を決め、トンネルの掘削方法、埋設の具体的なやり方などを一つひとつ決めていかなければならないのです」と答えましたね。小出さん、この程度ならば素人でもわかることですよ。

小出さん、貴方自身でここまで述べてもまだ己の未熟さに気づきませんか。常識ある読者の多くが気づいていますよ。貴方の周りにいる多くの友人・知人らでさえ以前から気づいているのです。故に、議論を中止するように忠告されたのです。私も3月31日、京大ブランドの信用失墜を避けるためにも、当該論議を終了させることを提言させていただきました。複数の京大卒業者からも依頼されましたからね。

小出さん、貴方は私に問われるまで、各電力本社ビルの地下に高レベル放射性廃棄物を保管できるか否かについても真剣に検討した事実はないではありませんか。もし、真剣に検討していたならば、搬入港から各電力本社ビルまでの輸送方法等、その妥当性をも検証し、あのような感情的な愚論を繰り返すことはなかったはずですよ。小出論を妥当とする事由は見当たりません。

小出さん、東京電力ワシントン事務所が「原子力eye」に真面な意見を書いたからなんだと言うのですか。原子力発電を実行している東京電力でさえ、民主社会の中で正論を唱え、出来る範囲で努力しているという証しではありませんか。電力だけではありません。責任を自覚する多くの企業、多くの人々が温暖化対策に苦慮し、省エネ技術や新エネルギー開発に努めているのが現状です。

小出さん、国の専管事項だからといって、国が勝手に決定し、国が勝手に処分できる訳でもありません。“では、どうすれば解決するとお考えですか？”私たち国民一人ひとりに課された問題でもあるのです。小出さん、2010年以降、世界各国で年10基前後の原発が新設される計画があるという事実も見据えなければなりません。各国の要請を受けた国内某企業は、今後3年間で五百億円を投じ、年に原発8基分の生産能力を維持できるように対処するとのことですよ。

小出さん、こういった現状をも踏まえたならば、負け犬の遠吠えのような「反対論」を唱えたところで詮無いことです。三守論（自然を守り、故郷を守り、核の脅威から子孫を守る）を実践するためには、反対の為の反対論を唱えるのではなく、では、どうすれば、といった解決策まで論じ合う必要があるのです。

私たちが、「エネルギー問題は文明国家の要素」と気づいた平成元年、既に放射性廃棄物は存在していました。にもかかわらず、安全確立に必要な不可欠な調査・研究施設の建設計画は頓挫していました。小出さんは勿論のこと、誰もが徹底論争をしていなかったのです。この様な状況下にあったからこそ、私たちが論争を開始したのです。小出さんのように自己利益を考慮できれば、国や事業者を問い詰めることもなかったろうし、これ程までに嫌われることもなかったでしょう。

小出さんは、私を「権力に屈した」と評しますが、「NUMO」の評価は大きく異なっています。私が権力に屈していれば、私は「NUMO」の協力者と呼ばれ尊重されていたことでしょう。しかし、現実とは異なり、「NUMO」は応募した首長に対し、「石川さんには深入りしないでください」とお願いする有り様です。「NUMO」の組織化に「時期尚早」と反対し、「寄せ集めの素人集団」等と批判、専門組織への再編を提言しているからでしょうか。小出さん、遠吠え的反対論などいくら唱えても政策は是正されません。国策に協力しかつ自治体を潤し、その上で国策を是正する。これが、私の求めるところです。

質されれば答える、と述べながら、「原子力安全・保安院の分離独立」問題に対する小出論は記されておらず、今回もまた環状論の繰り返しでした。福島県は喜ぶでしょうが、今回は分離論の矛盾には触れないでおきましょう。

小出さん、意見の異なる者と議論し下劣になるのは、貴方の品性がいやしいからではな

いでしょうか。小出さんと議論を開始した当初は、徐々に胸が高鳴り、貴方からの反論が待ち切れず、その内容を予測し、事前に再反論書を作成したこともありましたが、しかし、そういった思いは回を重ねるごとに薄れていき、「結論」以降は、反論書の作成さえ煩わしいと感じるようになりました。

聡明な読者にはご理解いただけるとは思いますが、中身のない環状論を繰り返されると、「あ～ この程度でも反原発の第一人者となれるのか～。これでは、絶対に国策などは正されるはずもないな」といった情けない思いにかられるのです。もし、「判断は読者に」といった小出さんの言葉がなかったら、ここまで続けることはなかったでしょう。

とはいうものの、一時は鏡に映った己を見た気持ちになったのも事実です。性格が似ているからこそ反発したのかも知れません。もっと早い段階で、もう少し違う出会い方をしていたならば、お互い協力して国策是正に携わったかも知れませんね。

長期間の論議、本当にご苦労様でした。

草々